

**** 中川原章君（3組）東京二木会講演レポート ****

3月8日、あの東日本大震災から丸1年目を迎えるにあたり、

中川原君が二木会講演のテーマとして選択したのが

『放射能汚染と子ども：「フクシマ症候群」への対策は万全か？』

です。彼自身ご両親をいずれも癌で亡くされたという生い立ちから

この分野での医学向上に貢献したいという強い信念で研究に励まれ

日本でも屈指の専門家として活躍をされている事は、同じよいよい会

メンバーとして喜ばしいことです。

当日は、昨年9月の2組洞駿君の講演に続くものですが20余名の応援団

が学士会館に馳せ参じ大いに盛り上げてくれました。

恒例の講師紹介役は、なんとといってもこの講演実現に尽力した7組稲葉

頌一君、そう最近なぜか仲間内に恩師、恩師と言われているのはご存知

の通りですが、若かりし頃中川原君の研究助手の女性を強引に自分のお嫁

さんに奪い取った事から因縁の付き合いが始まったという暴露話も公開され

ました。

講演では、中川原君の国際的な活動の結果として近年チェルノブイリの

小児がん子供救済の為に設立されたロシア小児がんセンター所長との連携

で福島原発事故の放射能汚染への予防対策への協力体制が構築されたこと

（プーチン首相によるリーダーシップ？）や第2次大戦以降敵対関係にある

はずの独露両国がチェルノブイリ事故への独の貢献により少なくとも医学の

分野での関係は極めて良好であることなどの逸話も織り交ぜながら予定の

1時間をたっぷりオーバーしての充実した内容となりました。

（詳細は添付のレジメを参照下さい）

慰労会は学士会館の斜向かいにある「夏の陣」の会場と同じ「さんくす」

肩の荷を下ろした中川原君から応援団への謝辞に始まって、同じ3組の山城君、羽立君、宮永君、宮原君、そしてなんと言っても暫く闘病生活でご無沙汰だった10組横大路啓司君の元気な姿が目を引きました。精悍な髭面が結構お似合いで、これからは同窓会にも顔をだすとの力強いコメントもあり楽しみがまた増えました。

慰労会を終えて遅く帰宅した後、NHKTVでチェルノブイリ放射能汚染の25年間のドキュメンタリー特集が放映されていたのを目にしたり、翌朝の新聞で日本とベルラーシ政府間で初めてチェルノブイリ放射能事故の情報活用に関する協定が結ばれたことが報じられたことと中川原君の献身的活動が無縁でないと確信した次第です。

因みに当日応援団の顔ぶれは以下の通りです。

- 1組 河野・高木・桑原
- 2組 洞
- 3組 羽立・山城・宮永・宮原
- 5組 帆足
- 6組 高尾・堀・黒岩・村上宏一・治代
- 7組 稲葉
- 8組 鹿子島・片田
- 9組 江口・安田
- 10組 横大路・森田・北郷・高橋
- 11組 渡辺・淀川

7月の二木会（7/12）では、再び加藤君（12組）の登場も予定されており、この処の東京よいよい会メンバーの活躍は目覚ましいものがあり、遊び人グループと

世間（含む家族）で誤解されていた？ことが嘘のようです・・・

以上／よく学びよく遊ぶ幹事連













